

# 令和四年度 奈良県知事賞

## 過去と未来の架け橋

奈良市立飛鳥中学校 三年 小倉 凧

私が通う飛鳥中学校は、春日山原始林のそばに立つ。春日山原始林は、古来より聖域とみなされている、神秘的な森林だ。春日大社や東大寺、元興寺、興福寺、平城宮跡、薬師寺、唐招提寺と共に八つの資産、「古都奈良の文化財」として世界遺産に登録されている。

私は、小学生の頃から学校で行われていた「なら」の学習などを通して、これら世界遺産を始め、身近に多く残る文化財や遺跡にたくさん触れてきた。それらは私と過去とを繋げ安心感を与えてくれた。これらを保存するためにはどれぐらいのお金がかかるのか、税金との関わりについて調べてみることにした。

文化財保護に使用される税金は、住民税や固定資産税、地方交付税などがある。薬師寺や唐招提寺は直近いずれも明治時代以来の修理が行われ、昔の良さを最大限に残したまま、ずっと未来へ繋がるものへと改修された。それぞれ十年間で二十から三十億円のかかる大工事だったが、それらの費用は国の税金で補助を行った。さらに、世界遺産にはユネスコから世界各国で集まった寄付金が届いている。

国指定の文化財の場合、五～八割が税金で賄われていた。

市指定の文化財の場合、市の税金が負担をしている。資料を分かりやすく書き直したり、外国語に翻訳したり、修理や保護だけでなく観光客向けの活動にも使用されている。

現在、奈良県では「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」を世界遺産にしようとして提案している。この活動に、令和四年度は二千七百万円が使用される。

「春過ぎて夏来るらし白妙の衣乾したり天の香具山」飛鳥時代に持統天皇が詠んだとされる、新古今和歌集や百人一首に選出された歌だ。この歌碑は、奈良県橿原市にある藤原宮跡の一角に建つ。香具山、畝傍山、耳成山から成る大和三山に囲まれ、背丈ほどに伸びる草花が茂るこの地に立つと、くっきりと歌の情景が浮かび、まるで千年以上前と繋がっているかのような、不思議な感覚になる。広大な宮跡を通り過ぎていく風は、当時悩んでいた私の小さな背中を押してくれた。世界遺産に指定され、世界規模でこの魅力が伝わると思うと、嬉しくなる。

税金は千年前と現在を繋げる架け橋とも言えるのではないだろうか。

私たちの世代が、百年後、千年後に奈良の素晴らしさを繋げていくのは大切だけれども、莫大なお金がかかり、簡単なものではない。けれど、それが、市、県、国の税金、国境を越えた世界からの寄付金に支えられていることを知り、そんな奈良の地で育った事はとても誇らしい事なんだと気付いた。

まだ税金という言葉は遠い存在だが、少しずつ理解を深め、得た知識を大好きな奈良の文化に還元していきたいと思う。